

“いじめ”に思う

スポーツ界において“いじめ”の問題に光が当てられている。権威や権力を武器に後輩をいじめ、心に深く傷を負わせることに非難の声が上がるのは当然である。一方、いじめた本人には相手の成長のためという気持ちがあったかもしれないが、それがいじめを増幅させたのであろう。それは弱き心とも言える。強い立場の人間には弱き人の心の痛みを常に思いやることが求められる。つついの行動が取り返しのつかぬ結果となることもあろう。セクハラ、パワハラ、アカハラも似たところに根っこがありそうだ。歳を取って責任が増えても、精神は成長していしないなと思う。嫉み、羨み、蔑む。その裏返しとしての“いじめ”の落とし穴に入らないように常に気をつけなくてはなるまい。先輩からの厳しい指導が懐かしく思えるのは十分な配慮をさせていただいていたお陰であろう。